

18.学校教育の重要性、子供たちへの期待

防災は限られた人だけが知識を高め備えをただけでは十分ではありません。また、ハード対策だけでは十分でなく、ソフト対策を組み合わせることで、被害を最小にできます。そのためには、できるだけ広く関心を持っていただくような取り組みが必要で、そう意味では学校教育での防災学習はその影響力が大きいので大事なこととなると思います。学校では児童がいて、地域との関連性も高く、地域資源も活用も期待でき、様々な成果が期待できます。

その学校教育では、何を教えるのかではなく、むしろ教える側の防災知識や防災意識を向上させる必要があります。単なる知識では、意図的かつ長期的な情報提供につながらないからです。

最近、学校で金融の出前事業が行われているようですが、これは子供のころから基本的な経済生活の知識とリスクへの関心を持っていただいて、大人になって被害や損害に逢わない、正しい判断ができるようにという目的で行われているようです。防災教育も同じようなこととなりますが、大事なことは地域を知ることが安全、安心、安定した暮らしができるということと共生、共同の大切さを学んでほしいということになります。

まずは、災害リスクへの正しい理解と適切な行動の大切さをこれまでの経験を通して理解するための知識が要ります。つまり、誤った信念、技術的な限界、情報のあいまいさという中でいかに適切な判断をするか、しなければならぬかを学ぶようにします。次に、自分たちができることは何かを知り、いかにして被害を最小にするのかということ。それは、建物の耐震化、地域のリスクを理解する、避難ルートについて考えたり、避難場所の適否を判断するという防犯にもつながることを日常の中で考えることになります。

そして、ないものをねだってもしょうがありませんので、あるものを活用することを考えると、ハザードマップの活用があります。ハザードマップは、いまはいつでもどこでも手に入りますが、意外とその重要性が理解されていません。ハザードマップはどのようにして作成されているか、単なる危険な箇所が示されているだけでなく、作成の背景を読み解くことでかなりの地形や地質、周辺の自然環境、リスクの背景といったことが読み取れる第一級の資料です。その読み解き方をぜひ知ってほしいと思っています。それには外部の支援を受けることがあってもよいし、ぜひそうしてほしいと思います。

学校教育で最も大事なことは、地域の特性に合わせた内容で、具体的に確認できるようなことを対象にしていくこと、継続して行われることが必要だと思います。そして、学習内容は地域の自治体などにもリーフレットとして公開するという方法で、学校と地域が一体となつての学習が最も望ましいと思います。そうすることで、防災で最も気になっているところの関心の低い人、あるいは弱者の方に対して有効なお知らせになるような気がします。児童を通した取り組みは、地域資源の活用とも連鎖して次世代へとつながる防災文化の醸成につながるのではないかと期待しているところです。